

大阪薬科大学広報委員会



## 森下 泰理事長の 御逝去を悼む

学長 藤田 栄一

昭和62年11月14日、大阪薬科大学理事長 森下 泰先生が逝去されました。誠に悲しみの極みであり、ここに謹んで御冥福をお祈りする次第であります。

故森下 泰理事長は、昭和44年大学紛争の真只中に理事、ついで昭和45年に第6代目の理事長に就任されました。爾来17年にわたり、本学の運営に卒先垂範され、今日の本学の隆盛をもたらされました。内にあっては、そのおおらかで快活な御性格と毅然とした実行力に満幅の信頼を受けられ、外にあっては幅広い御交際と長年にわたる参議院議員としての御業績から深い尊敬を集められました。そして、大阪薬科大学への評価を大いに高められたのであります。

本学は遠く大阪道修薬学校として設立されて以来80有余年にわたる輝かしい歴史と伝統をもち、幾多の俊英を世に送り出しておりますが、新制大学として出発しましてから大学院の修士課程につぐ博士後期課程の完成を見ましたのはごく最近のことでございます。森下先生は常々よく将来を見きわめて何か新しい建設を考えてはどうかとおっしゃっていました。いよいよ大学院を備えた大学として新しく飛躍発展を遂げようと目指している矢先に理事長を失ったことは誠に大きい損失であり、衝撃であります。しかしながらいつまでも悲しんでいるばかりにはまいりません。この厳しい現実をしかと受けとめ、この悲しみを越えてあとに残されたわれわれ教員ならびに職員一同一丸となって本学発展のために最善の努力を重ね、故森下理事長の御遺志を全うする所存であります。どうぞ森下先生安らかに眠り下さい。

### 故森下 泰理事長御略歴

大正10年12月21日	生	昭和45年12月～	学校法人大阪薬科大学理事長
昭和18年4月～	森下仁丹株式会社取締役社長	46年2月～	日本私立大学協会理事
9月	京都帝国大学経済学部卒業	46年～	甲南学園評議員
23年	紺綬褒章受章	47年～	大阪商工会議所議員
24年3月	東京大学法学部卒業	49年～	参議院議員
26年4月～	学校法人大阪薬科大学評議員	50年～	株式会社仁丹ドルフ取締役
27年～	大阪府剣道連盟副会長・理事長	51年～	全国家庭薬協議会会頭
30年～	大阪府社会人剣道連盟会長		大阪家庭薬協会会頭
38年～	学校法人大阪経済大学評議員		日本剣道連盟参与
	財団法人森下仁丹奨学会理事長		日本製薬団体連合会顧問
	近畿実業団剣道連盟会長		日本薬剤師会顧問
44年6月～	学校法人大阪薬科大学理事	59年6月～	全国一般薬協議会会頭
44年～46年	中央教育審議会臨時委員	62年11月14日	日本私立薬科大学協会理事 逝去



# 就任のご挨拶

学生部長 望 月 伸 三 郎

6月より学生部長という大役に選任され、改めて大学教育の在り方を認識させられる毎日であります。

昭和20年までの日本の高等教育は義務教育卒業人口の4～5%であり、20年代でも10%程度と言われていたものが、今日では義務教育後、高校へ進む者が93～94%でその中から40%は短大を含めた大学へ就学している現状です。50年前、30年前の大学生は基本を教えれば勉強でも実験でも、また学友会活動にしても、自分等で自主的にやることに大人の意識があって先生方も安心して任せることが出来たが、40%の大衆化教育となると実に多様な教育方法が必要となっている。また進学戦争と言われる幼稚園から高校までの受験体制の中での生活は、出題に対する解答、要するに出題という指示を受けて答える動作をすればよいといった生活に慣れた結果「くれない族」の誕生である。現在の学生は「教えてくれない」「指示してくれない」といった不満を多く持ち、自ら求めるために行動する、理

解不足を補う質問をするなどの態度をとることも出来ず、不満を扱いかねている学生が増えている。一方、先生方は「今の学生は勉強しない」といった不満があり、「教えてくれない」「勉強しない」のすれ違いをどう埋めて行くかが問われている。

本学でも、ここ2～3年何となく学生の対応の変化を感じておられる先生方も多いと思います。40%の多様化は臨教審の「大学教育の充実と個性化」の論議を呼び教育の充実と個性化は現場の対応として学生の1人1人をより多く理解することから生れます。それ故、アドバイザー活動、実験実習、クラブ活動などを通して学生とのより深い理解を求めている充実と個性化だとうけとめています。

あらゆる機会を捉えて学生とのコミュニケーションを計り「21世紀の大阪薬科大学」を目指してゆきたいと思えます。

## 薬剤師国家試験並びに臨床検査技師国家試験について

教 務 部  
教 務 課

### 薬剤師国家試験

薬剤師国家試験制度の改正の第1段階として本年4月より薬剤師国家試験が年1回となったが、今回は更に厚生省薬務局長名で後記のように63年から解答形式、出題形式の変更を行う旨の連絡があった。今回の変更点は解答形式、実地試験の内容及び出題形式、並びに問題数の増加についてである。実地試験については、従来は衛生化学・公衆衛生学か日本薬局方かのいずれか一方と薬剤学が出題されていたのであるが、昭和63年からは衛生化学・公衆衛生学、薬剤学及び日本薬局方の3科目全てが出題されることになり、その内訳に

についても薬剤学35問、衛生化学・公衆衛生学15問、日本薬局方15問と変わっている。問題数の増加については薬理学10問、薬剤学10問、薬事関係法規5問、衛生化学・公衆衛生学、日本薬局方で10問、そして前記実地試験内容の変更に伴う増加分15問の計50問である。解答形式については、従来迄の5肢択一方式に加えて、それよりも肢の多い多肢択一方式が導入される。実地試験の科目の増加、問題数の増加は当然それだけ厳しくなったと考えねばならない。また、6肢以上の多肢択一方式の導入については、“設問の増加は行わず、解答方式を多肢にすることで基礎知識の有無を問いたい”（ある委員の非公式発言）とのことらしいが、やはり

結果的に難しくなると考えざるを得ない。

#### 施行形式

1. 解答形式  
5肢択一方式を原則とするが、5肢以外の多肢択一方式(10肢以内)も適宜導入する。
2. 試験問題プール制の導入  
過去の試験問題を概ね20%程度再出題する。
3. 実地試験の内容及び出題形式  
衛生化学・公衆衛生学、薬剤学及び日本薬局方を全て毎回出題することとする。
4. 試験問題数の増加及び試験時間の延長  
試験問題数は、200問とする。これに伴い試験時間を延長する。

内訳は次のとおりである。

区 分		科目及び問題数		時 間
第1日	午前	薬理学 薬事関係法規 計	30問 15 45	10:00~ 11:45
	午後	衛生化学・ 公衆衛生学 薬劑学 計	30 30 60	13:00~ 15:20
第2日	午前	日本薬局方 計	30 30	10:30~ 11:40
	午後	衛生化学・ 公衆衛生学 薬劑学 日本薬局方 計	15 35 15 65	13:00~ 15:35
合 計			200	

#### 5. 合格基準

合格決定は、次の方針で行う。

「薬剤師国家試験は、薬剤師として必要な知識及び技能について試験するものであり、全科目の総合成績が一定水準以上であり、かつ、各科目毎の成績も各々一定水準以上の者を合格とする。」

第73回薬剤師国家試験施行日

昭和63年4月2日(土)、3日(日)

#### 臨床検査技師国家試験

厚生省は臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律施行規則の一部改正を行ったが、その中に臨床検査技師国家試験制度改正とカリキュラムの変更が含まれ

### 故森下 泰理事長 大学葬

去る11月14日逝去された森下 泰理事長の大学葬が下記の通り執り行われることになった。

日 時 昭和62年12月16日(水)午後2時

会 場 本学 体育館

### 故森下 泰理事長追叙

11月14日逝去された森下 泰理事長は同日付で正四位勲二等に叙せられ、旭日重光章を授与された。

ている。したがって本学でも臨床検査技師国家試験受験資格取得に必要なカリキュラムの変更を行うことになった。

この改正にともなう新カリキュラムによる教育は昭和63年度より、新制度による国家試験は昭和65年3月より実施される。なお、臨床検査技師国家試験は昭和63年度より、年1回(春)の実施に変更の予定である。

本学の変更科目 昭和63年度より

医用電子工学概論 → 医用工学概論

看護学総論 → 臨床検査総論Ⅰ、Ⅱ  
(臨床検査総論Ⅱについては臨床検査実習コースの中で履修する)

国家試験科目

昭和64年12月31日まで(医、歯、薬卒業者等特例)

臨床検査総論Ⅱ(関係法規を含む)

臨床生理学

臨床化学

医用電子工学

昭和65年1月1日以降(特例なし)

医用工学概論(含 情報科学概論、検査機器総論)

公衆衛生学(含 関係法規)

臨床病理学総論(含 臨床医学総論、医学概論)

臨床検査総論(含 検査管理総論、医動物学)

病理組織細胞学

臨床生理学

臨床化学(含 放射性同位元素検査技術学)

臨床血液学

臨床微生物学

臨床免疫学

# 就職状況中間報告

就職部長 森 坂 勝 昭

就職の直接の対象者は最終学年の4回生であることはもちろんのことであるが、就職への階段は少なくとも大学へ入学したときから、否、それ以前からすでに始まっていると云えよう。就職試験に臨むと云うことは、各人が家庭、大学その他においてこれまでに身につけてきた学問、知識そして人格、さらに体力をあわせた総力で社会への関門に挑戦することである。従って就職とはまことに重要なことであり、その人の人生を左右するものである。4回生になってあわてて泥縄式で就職試験に対処することは決して無駄とは云えないが、失敗するケースも多い。少しでも低学年のときから心準備し計画を立てておくべきだと思う。大学側も就職指導を低学年から行うべきであり、4回生になってからでは遅すぎると思う。

薬系大学の卒業生は多くが薬剤師資格を生かしての就職であるから、他の理系大学と比較して有利な面をもつが、就職先の選び方が安易になり勝ちで真剣さが少ない。ほとんどの私立薬大の入試科目が理数英に限られているので、偏重した巾の狭い、何かが欠けてい

るような人が多くて就職試験でも失敗するケースが多々みられる。この点を云々すると入学の選抜方法、薬学教育やこれからの薬剤師像についてまで検討しなければならないし、その必要性は大である。

さて、本年度の就職状況の中間報告は10月26日の時点で下表の示す如くである。本年度の4回生の総数は前年度と比較して大巾に少ないので、就職指導は少しは楽になるものと予想したが、女子の場合は前年度よりも窓口が少なくなってきびしいだろうとの予測もあり、当初はやはり心配であった。しかしながら、もつれた糸玉が少しずつほぐれるように女子の企業への内定者が増え出して予想外に好転してきた。企業の学術、営業部門（医薬品情報担当）への女子の志望者が多くなり、企業側もこれに応じてくれる構えとなり、内定者が増す結果となった。女子の積極性が買われたものと思っており、男女雇用機会均等法がこの姿で適用されてくれば幸いと思っている。

病院薬局からの求人も決して見通しはよくないと予想するが、前年度より本学が始めた学外医療研修制度

## 求人状況（昭和62年10月26日現在）

	会 社	病 院	販 売 業		公 務 員		研修生	* その他	計
	営 業 研 究 学	薬 局 臨 床 検 査	卸 売	小 売	薬 劑 師	臨 床 検 査 技 師			
求人件数	173	86	51	60	24		17	29	440
男 子	127	9	26	17				13	192
女 子	29	82	3	13				10	137
男女不問	337	114	100	163	67		129	66	976
計	493	205	129	193	67		129	89	1,305

\*臨床検査センター、試験受託機関、コンピューター、出版、生命保険会社、予備校、生協等

就職内定状況（昭和62年10月26日現在）

		会 社		病 院		販 売 業		公 務 員		大学院	研修生	その他	進 路 明	計 (%)
		製薬化学等	薬局	卸売	小売	地 方								
男 子	内 定	29	2	5	1			15						52( 64.2)
	受 験 中	7	7		1	3			1	1				20( 24.7)
	進路不明											9		9( 11.1)
	計	36	9	5	2	3		15	1	1	9			81(100.0)
女 子	内 定	37	11	3	2	1		1		1				56( 36.4)
	受 験 中	24	18			13			4	3				62( 40.3)
	進路不明											36		36( 23.3)
	計	61	29	3	2	14		1	4	4	36			154(100.0)
総 計		97	38	8	4	17		16	5	5	45			235

内 定 者 108名 (46.0%)

進路志望状況（昭和62年 5 月 1 日現在）

進路志望先		男女別		合計	%
		男子	女子		
製 薬 社	営 業 管 理 薬 劑 師	19	8	27	11.5
	研 究	1	30	31	13.2
	学 術 ・ 開 発 品 質 管 理	11	39	50	21.3
病 院	薬 局	11	50	61	26.0
	研 修 生	3	4	7	3.0
販 売 業	卸 売				
	小 売	3	3	6	2.5
公 務 員	国 家	1		1	0.4
	地 方	8	9	17	7.2
大 学	職 員		1	1	0.4
	大 学 院 進 学	18	1	19	8.1
その他(会社・団体)			7	7	3.0
家 業 従 事(薬局)					
就 職 希 望 し な い			1	1	0.4
未 提 出 者		6	1	7	3.0
合 計		81	154	235	100.0

は世間で評価され、前年度の研修生の中で研修病院から就職斡旋をして貰ったケースもあり、この制度を選択した学生に対する求人は今後において増加するものと期待している。

昭和63年度  
大学院博士前期(修士)課程入学試験

昭和63年度大学院博士前期(修士)課程の入学試験は10月12日に実施され、志願者は17名(内、学外3名)であった。

合格発表は10月17日に行われ、13名(学内のみ)が合格した。

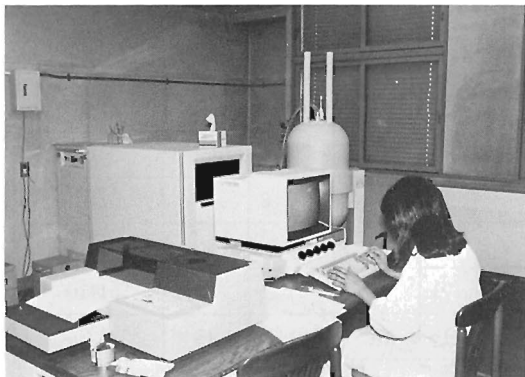
合格内訳

専攻科目	合格人数	専攻科目	合格人数
薬 化 学	2	微 生 物 化 学	2
生 薬 学	0	薬 劑 学	1
薬 品 製 造 学	1	薬 理 学	2
衛 生 化 学	1	薬 品 分 析 学	2
生 化 学	1	薬 品 物 理 化 学	1

この結果、生薬学、薬品製造学、衛生化学、生化学、薬剤学、薬品物理化学については63年3月に、二次募集を行うことになった。

## ●機器紹介

# Gemini FT NMR システム



有機化合物の構造解析にはいくつかの分析装置を組み合わせる必要がありますが、NMR装置ほど多くの情報を与えてくれるものはありません。NMR装置の心臓部である磁石は初期の電磁石や永久磁石から超伝導

磁石に置き換えられつつあります。最近、新聞紙上で超伝導が室温でつくられると報道され話題となりましたが、現在実用化されている超伝導磁石は液体ヘリウムにおける低温でつくられています。

この超伝導磁石を用いたFT NMR装置は性能が優れ、一次元および二次元の種々のスペクトルが測定でき、構造解析、分子相互作用、反応速度、生化学における複雑な問題の解決など応用分野が広がっております。このような広範な応用のために、1984年本学に設置されたVarian XL-300 FT NMR装置(300 MHz)の使用頻度は急速にふえ、測定が遅れて円滑な実験に支障をきたすようになり、これを少しでも解消すべく、今回新たに水素、炭素ルーチン専用のVarian Gemini-200FT NMR装置(200 MHz)を導入しました。この機種はXL-300より分解能がやや劣りますがほぼ同じスペクトルが得られ、その上測定操作が簡単で自動測定も可能であり、専任のオペレーターなしで誰でも測定できるという特徴を持っています。NMRの測定は複雑で難しいとされ、オペレーターが苦勞してきた時代から誰でも測定できる時代に今移行しつつあります。限らない技術の進歩に驚異と恩恵を感じさせる新世代のNMRシステムです。

(沼田 敦)

## 昭和61年度法人決算について

事務局長 吉 野 幸 夫

去る5月29日の理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の昭和61年度の決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書によって、その概要を説明することとした。

### 消費収支計算書について

消費収支計算書は、当該年度の消費収入および消費支出の内容と均衡の状態を明らかにするためのもので、昭和61年度は別表のとおりである。

昭和61年度においては、掃蕩収入の合計は、予算に比して2億4500万円余の増であり、消費支出の合計は、予算に比して1億4100万円余の減であり、従って決算は予算に対しては実質的には3億8600万円余のプラス

勘定となり、基本金組入を予算より2億6000万円余増で行うことができ、かつ翌年度繰越消費収入超過額——いわゆる翌年度への繰越金——も4億1800万円余となった。

なお、消費支出の部の『前年度繰越消費収入超過額』——いわゆる前年度からの繰越金——に計上されている予算額4億3695万円は、昭和60年度法人決算において、3億9250万円余に確定したので、決算額は当然に表記のように訂正されることとなる。

### 消費収入の部について

消費収入の部については、『資産売却差額』について関連事項を説明したい。

『資産売却差額』に表示された決算額1億3350万円

## 消費収支計算書

〔昭和61年4月1日から  
昭和62年3月31日まで〕

消費収入の部			単位円
科 目	予 算	決 算	差 異
学生納付金	1,154,050,000	1,151,250,000	2,800,000
手数料	67,450,000	84,065,950	△ 16,615,950
寄付金	0	4,866,630	△ 4,866,630
補助金	340,170,000	382,341,153	△ 42,171,153
資産運用収入	130,000,000	169,430,480	△ 39,430,480
資産売却差額	0	133,508,154	△ 133,508,154
事業収入	16,220,000	17,926,801	△ 1,706,801
雑収入	29,330,000	39,225,388	△ 9,895,388
<b>帰属収入合計</b>	<b>1,737,220,000</b>	<b>1,982,614,556</b>	<b>△ 245,394,556</b>
<b>基本金組入額合計</b>	<b>△ 197,000,000</b>	<b>△ 459,662,196</b>	<b>262,662,196</b>
<b>消費収入の部合計</b>	<b>1,540,220,000</b>	<b>1,522,952,360</b>	<b>17,267,640</b>

消費支出の部			単位円
科 目	予 算	決 算	差 異
入件費	976,040,000	961,785,656	14,254,344
教育研究経費	531,600,000	441,604,269	89,995,731
管理経費	83,540,000	76,348,601	7,191,399
借入金等利息	20,160,000	20,152,623	7,377
資産処分差額	0	318,059	△ 318,059
予備費	30,000,000	0	30,000,000
<b>消費支出の部合計</b>	<b>1,641,340,000</b>	<b>1,500,209,208</b>	<b>141,130,792</b>
当年度消費収入超過額	△ 101,120,000	22,743,152	
前年度繰越消費収入超過額	436,950,000	392,503,105	
基本金取崩額	0	3,551,555	
翌年度繰越消費収入超過額	335,830,000	418,797,812	

余の収入は、新堂グランド用地の一部を売却したことによるものである。これは、災害対策事業としての西除川改良工事に伴い、西除川の拡幅および護岸のため、大阪府から新堂グランド用地のうち、西除川沿いの部分1337㎡の割譲を要請されたもので、理事会および評議員会においては、止むを得ないものとして、これを了承したものである。

なお、この割譲により、新堂グランド用地の面積は、4076㎡となった。

また、この用地売却に伴い、理事会および評議員会においては、本学の将来計画に関連して予想される校地の取得、校舎の建築などの実現に備えるため、3億円を計画的に基本金に組み入れることを決定した。

従って、この決定により、『基本金組入額合計』の決算額4億5966万円余のうち、3億円は計画的組入であり、その余の1億5966万円余は一般的組入というこ

とになる。

### 消費支出の部について

消費支出の部については、建物の計画的補修について関連事項を説明したい。

消費支出の部の『教育研究経費』において約9,000万円、『管理経費』において約700万円の支出残が表記されているが、この支出残は、主として建物の計画的補修の遅延によるものである。

昭和61年度においては、建物について耐力度測定を行い、その測定結果に応じて必要な補修を計画的に実施することを予定したが、その後、補修の方式を如何にするかについては、さらに慎重に検討する必要を生じたので、補修工事の実施予定を翌年度へ繰り延べることとなったため、相当額の支出残を生ずることとなった。

## 学長 東宮御所で講演

日タイ修交100周年を記念して来日されたタイ国王女チュラポーン殿下を迎え、皇太子・同妃両殿下主催による生薬学シンポジウムが8月16日東宮御所で開催され、柴田承二東大名誉教授、北川勲大阪大教授に続き、本学藤田栄一学長が「ラブドシア属植物の抗腫瘍活性ジテルヘン」と題する講演を行い出席者に多大の感銘を与えた。なお、チュラポーン・タイ王女は同国マヒドン大学の生薬学教授であられ、藤田学長に続いて「タイ国における薬用植物成分の研究」について講演された。

## 大阪薬科大学大学院 薬学博士第1号誕生

大阪薬科大学大学院薬学研究科に博士課程が昭和59年4月設置されると同時に入学した生薬学専攻の竹内一男氏は、本年3月末をもって所定の在学期間を終え、別項記載の学位論文により本学大学院第1号の薬学博士の学位を取得した。

## 衛生化学教室



教授 藤田 直

衛生化学を担当して20年になりましたが、未だに衛生化学の難しさを痛感しているところです。私が学生時代に教わった衛生化学に比し、現在の衛生化学の進歩は著しく、特に薬学教育の中でも社会環境に左右される学問の一つと考えております。

教育面では、水谷教授と共同で担当しています。その概略は学報(12号, p. 7, 1985)を参照して頂きたい。

私の研究室は、助手2名(藤本陽子、佐久間 寛)と大学院生2名(修士課程)、特別実習生4名で仕事をしています。研究のテーマは、一つはプロスタグランジンの生合成と分解過程の解明です。プロスタグランジンは、生体の臓器によっては合成、分解のactivityが異なり、それが生理作用にどのような影響を及ぼすかを検討するものです。もう一つは、プロスタグランジンの基質は膜リン脂質を構成するアラキドン酸で、二重結合を多くもつ化合物は *in vitro*, *in vivo* いずれにおいても酸素によって酸化を受け易い。生体ではこの酸素が活性酸素( $O_2^{\cdot-}$ ,  $\cdot OH$ ,  $H_2O_2$ )と称する radical に変化する。この活性酸素のアラキドン酸カスケード(アラキドン酸から数十種類の生体活性物質の生成)に対する影響について *in vitro* の実験系で検討中です。

さて、この研究を発展させるためには研究スタッフの充実は勿論のことではあるが、その実験で得た成績をどの Journal に投稿するかによってその評価が決まると私は常々思っています。別刷の請求が50~100部来た場合は、その実験のテーマは大切に、論文の量より質に重点をおいて以後実験を進めています。逆の場合は、その実験の protocol を組み直して実験を進め



前列左から藤本助手、藤田教授、中谷院生  
後列右から佐久間助手、西岡院生、他は4回生

ることにしています。というのも、以前と異なり、現在は内容のある仕事、originalityのある仕事をしないとこの世界では同じ土俵に上げてもらえないことが多々あります。しかし、私学の場合、教育と研究は少なくとも fifty-fifty で、国立大学の様に研究を中心とした仕事は望めません。この点について、私は若手に特に注意しているつもりです。研究中心の行動をとるなど。小さな研究室ですから、教育と研究のバランスを考えて仕事をするには私にとっても助手諸君にとっても、大変厳しい環境ですが、お互いの communication を大切に頑張っております。

### 昭和63年度学部入学試験要項

1. 募集人員 薬学科 120名 製薬学科 120名  
計240名
2. 出願期間 昭和63年1月11日~2月4日  
(必着)  
昭和63年から出願は郵送のみ
3. 入学検定料 25,000円
4. 入学試験 昭和63年2月12日(金)9時より
5. 試験場 本学  
代々木ゼミナール大阪校  
(地下鉄御堂筋線「江坂」駅、  
下車約1分)
6. 合格発表 昭和63年2月19日(金)



## 学内施設の整備



中庭の植栽

今夏実施しました主だった工事については、

① クラブハウスその他の塗装

② 中庭植栽

③ 図書館耐震補強工事

の3件が挙げられます。

まず、①のクラブハウスその他の塗装につきましては、学内通路の東側に並んでいたポンプ室、危険薬品庫、地肌むき出しでうす汚れていた汚水処理施設などを白系統の色で統一したため、以前のような暗さがなくなったと思われます。一方、グラウンド西端に位置するクラブハウスも建築後5年を経過し、軽量鉄骨造でもあり、一部に錆がみられてきたため、部分的に塗装を行いました。玄関のネット部分などは今までとは異なった色にして（決して錆止めそのまま放っているの

ではありません）、アクセントをつけました。

次いで、②中庭植栽についてですが、今まであったニセアカシアの森を撤去し、ビワ、ハゼなどの薬効のあるものは薬草園へと移植しました。これからは、アカシアの雨がなくなるのはちょっと淋しい気もしますが、一味違った景観となるでしょう。夏休みから9月にかけての1時期には、通路から見ると古墳のような、3階あたりの窓越しに眺めると、あたかもゾウリムシか何かの拡大模型のような姿をさらしておりましたが、その部分に比較的丈の高い木としては、エゴノキ、アメリカフウ、シャラなどを、その周囲にはタギョウショウ、キャラ、ツバキなどを配し、さらにハイビヤクシン、ヤブコウジ、リュウノヒゲなどで周囲を囲い、奥の方にはフィリツワブキ、セキショウ、シャガを植



図書館外観



雑誌閲覧室



2階閲覧室

えました。少し洋風庭園の趣を感じさせるものとなり、

学生諸君の目を楽しませてくれるものと思います。

最後に、③図書館耐震補強工事につきましては、61年より耐力度調査や構造調査を行った結果、強度的な面で数値的にかかなりの不足が見受けられたため、一部の窓を撤去して、構造壁にするという手法で強度を増加させたものです。これに伴い、照明器具の移設、増設などもとり行い、1階新着雑誌の閲覧室などは相当明るくなりました。また、年々増加の一途をたどる蔵書の静荷重に対応するため梁補強もとり行いました。この結果、2階閲覧室へ書架が増設され、蔵書の増加にも対応できる様になりました。本工事については皆様にご迷惑をかけたましたが、無事しゅん工しました。(施設課)



写真

- (上) 人体解剖模型
- (中) 人体解剖模型
- (下) 人体解剖パネル

## 人体解剖模型

薬学部の教育では患者に接した実地教育は認められていないが、医学系関連科目として解剖学、生理学、病理学等の講義が行われている。残念ながらこれらの科目の講義時間は、カリキュラム編成の制約により十分とはいえない。

昨年、父兄会の御理解と御援助により下記の人体解剖模型(京都科学標本株式会社製)を購入し、B棟3階に設置されました。ここに山中清行前会長、林秀夫会長並びに父兄会各位に厚く御礼申し上げます。

### 解剖模型

人体解剖模型、上肢、下肢、脳、脳動脈、頭部基底部、ニューロン、脊髄神経伝導反射経路、交感神経系、運動神経終末、神経循環門脈系、心臓、心電図付動く心臓、刺激伝導系冠状動脈、胃、十二指腸、空腸内面、腹部消化腺、肝臓、肝臓の血管分布、胆のう、脾臓、膵臓、腎臓、腎ネフロンと糸球体、皮膚断面。

### 解剖パネル

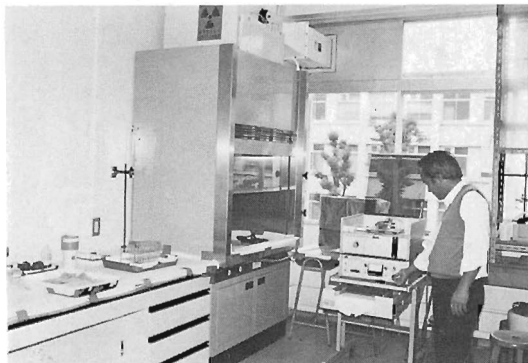
骨格前面、骨格後面、筋肉系前面、筋肉系後面、循環系、神経系、内分泌腺、内臓トルソー、脳及び脊髄神経。

学生諸君はこれらの解剖模型を積極的に利用し、人体の構造と機能に関する知識の修得に役立ててもらいたい。(森本 史郎)

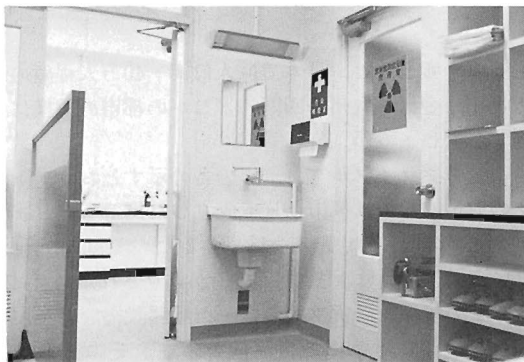
# R I 施設の増設

近年、製薬業界においてR I 取扱いの知識と技術を持つ若手研究者や技術者を求める声や放射性医薬品の開発研究と利用が増加していること、さらに、薬剤師国家試験にもこの種の問題が出題されるようになり、一般薬学生にも非密封R I の取扱いに関する教育が必要になってきた。それに答えるべく、今夏、B-22実習室の準備室の一部に非密封実習室、測定室および汚染検査室、さらに、排気、排水設備から成るR I 実習施設の増設を科学技術庁に申請し、許可を受けて改造工事を行った。施設の総面積は42m<sup>2</sup>、排気、排水設備は高性能フィルター付きオークリッジ型フードと屋外型ファン (16.7m<sup>3</sup>/min) 各1台、R I 排水貯留槽(0.8 m<sup>3</sup>) 2槽と希釈槽 (1.6m<sup>3</sup>) 1槽から成っている。使用上の法的な条件として、使用目的が実習専用であること、および、使用許可核種の種類と数量が次表のように限定されている。

(田中千秋, 木村捷二郎)



R I 実習室内



汚染検査室



R I 実習室 (2階) と排気設備

## 使用許可核種の種類と量 非密封放射性同位元素

核種	年間使用量	1日最大使用量
<sup>60</sup> Co	100 μCi	10 μCi
<sup>131</sup> I	1 mCi	15 μCi
<sup>137</sup> Cs	100 μCi	10 μCi
<sup>32</sup> P	1 mCi	10 μCi
<sup>59</sup> Fe	100 μCi	10 μCi
<sup>99</sup> Mo - <sup>99m</sup> Tc	20 mCi	1 mCi
<sup>125</sup> I	1 mCi	15 μCi
<sup>3</sup> H	10 mCi	100 μCi
<sup>14</sup> C	10 mCi	100 μCi

## 密封放射性同位元素

核種	1個あたりの数量および個数
<sup>60</sup> Co	1 mCi × 1
<sup>137</sup> Cs	1 mCi × 1



R I 排水設備



# ドイツ体験記

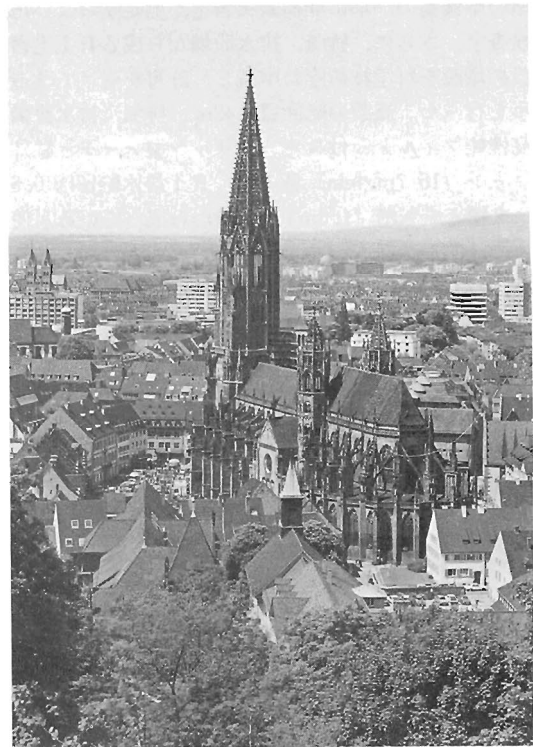
助教授 加藤 義 春

私は、改定された本学の「海外出張規定」の適用を受けて、1986年度、一年間に亘り海外研修の機会を持つ事ができました。ドイツ連邦共和国フライブルク大学の歴史学研究室 Historisches Seminar an der Albert-Ludwigs-Universität Freiburg i. Br. に於て、H. A. ヴィンクラー教授 Prof. Dr. Heinrich August Winkler の指導の下、「ドイツ・ナショナリズムの研究——19世紀ドイツに於ける『国民』意識の形成とその変容」Über den deutschen Nationalismus. Entstehung und Verwandlung des „National“-Bewußtseins im 19. Jahrhundert と題するテーマで、研究に励んだわけです。

研修経過の詳細及び研究内容とその進捗の概要については、既に学長宛に正式な「報告書」を提出しましたし、研究成果については、近々学会報告及び論文執筆の形でまとめる予定をしています。そこで、この稿では、一年間を過ごしたフライブルクの街と大学を簡単に紹介し、そこで得た様々な体験のうち、強く心を打たれ考えさせられた事どもの幾つかを記してみたいと思います。

## I フライブルクの街と大学

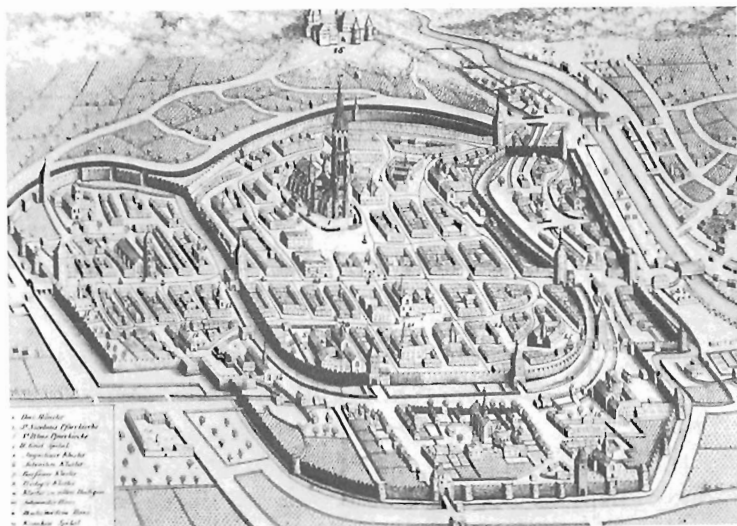
フライブルク Freiburg i. Br. は、西ドイツの西南バーデン・ヴュルテンベルク Baden-Württemberg 州の又西南端に位置する中都市です。西へ30km程でライン河をはさんでフランスのアルサス（ドイツ名エルザス Elsaß）地方と接し、南へ80km程行けばスイスの国境都市バーゼルに達します。そして市街の東側には、幅60km・長さ160kmに及ぶ広大な森林丘陵地帯シュヴァルトツヴァルト Schwarzwald がどこまでも広がっています。ドイツでは最も温暖な地域といわれますが、北緯48度ですから日本の北端宗谷岬よりは更に北、冬はやはり長くかつ厳しい。人口は約18万人ですが、ドイツの行政区画は狭く周囲に多くの小都市や村が隣接して



Münster を取り囲むフライブルクの街並み

いる事を考えると、日本では人口30～40万人程度の地方都市、金沢か九州や四国のどこかの都市の規模に相当するでしょうか。

そしてフライブルクは、その名の示すとおり、ドイツの典型的な中世都市として成立した街でもあります（スイスの同名の小都市と区別するために im Breisgau という但し書が付きますが）。街が創立されたのが1120年、その後徐々に貨幣鑄造権・市場開設権などを得て14世紀後半には都市の自治権を確立、その後もハブスブルク Habsburg 家領の帝国都市として帝国議会が



1600年頃のフライブルク（古絵図）

開かれたりもします。あのマリー・アントワネットがルイ16世に嫁いだ時も、この街からフランスへ旅立ったといわれます。街のシンボル——「キリスト教建築の中で最も美しいものの一つ」（J. Burckhardt）と評される聖堂 Münster が建造されたのが、1200年に始まって1513年まで、今も街の中央にゴシックの尖塔を際立たせています。城壁 Mauer の跡こそ残っていませんが、中世都市の面影は二つの市門 Tor とともに、今も旧市街 Altstadt に色濃く残っています。

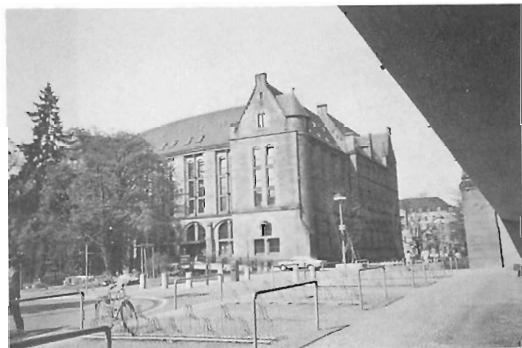
しかし、決して古い歴史の街というだけではありません。大学には1万人を超える青年達が学んでいますし、シュヴァルツバルトを後背に控えた景勝地として、又木材・機械・精密工業も盛んで活気を呈しています。それに、「皇帝の椅子」 Kaiserstuhl と名付けられた近郊の丘陵（かつての火山）の麓で作られるワインは——日本でこそ殆んど知られていませんが、ドイツ一番と誉れが高い。ドイツの政治・経済・文化には地方分権・地域分散主義が貫かれており——それが私には、現在西ドイツの最大の長所だと思えるのですが、フライブルクも又そうした一地域の中心として、実によく均衡のとれた発展を示しているといえるでしょう。

さて、この街のもう一つのシンボル——フライブルク大学 Albert-Ludwigs-Universität は1457年に創設され（それはドイツに於ける大学設立の第二の波に相当し、創設者とその後の再建者の二人の名を冠しますが）、既に五百有余年の伝統を誇っています。フランスにも近く、近代以降自由主義の伝統の根強いこの地域の大学として、数多くの思想家・学者を輩出してきましたが、

とりわけ19世紀末から20世紀初めにかけて在職した、あの経済=社会学者 M. Weber や歴史家 F. Meinecke、哲学者の E. Husserl や M. Heidegger の業績は、私達にも馴染み深いものです。又、当時の哲学の「西南ドイツ学派」の一牙城として、更に戦後西ドイツ経済の繁栄の理論的バックボーンとなった「フライブルク学派」の拠点として、常にドイツの諸大学の中でも重要な位置を占めているといつてよいでしょう。

私が師事したヴィンクラー教授も又、現在ドイツ歴史学界の新しい潮流——「社会史学派」の旗手として脚光を浴びています。同教授の下で私は、Kolloquium・Kandidatenseminar・

Hauptseminar に出席し（Kolloquium ではこれまでの研究成果と今後の方向を概括した Problematik des „Nationalstaats“ — in Bezug auf Faschismustheorie と題する発表を担当しました）、他方で図書館 Bibliothek に



歴史学研究室のある Kollegiengebäude IV



フライブルク大学の中心部





E. Husserl の住んだ家と Lorettostraße

通って文献を収集し読み進めながら、教授の指導と助言を得て研究テーマの掘り下げに努めたわけです。Kolloquium などでの機関銃の様な討論に加わるのは実に苦しく、又論理の組立て方などドイツの学問のあり方の厳しさを思い知らされましたが、教授以下研究室スタッフの方々には、Gastprofessor として誠に手厚くもてなしていただきました。その学恩と友誼は終生忘れる事はないでしょう。



H. A. Winkler 教授

ところで一年間のフライブルク滞在中、私は最初の三ヵ月は Goethe-Institut 直轄の寮に住み、その後は或 Gymnasium (日本の中・高等学校に相当する) 教師の家に住まい Wohnung を借りて生活しました。ドイツでの一年間の生活は、様々な困難があったとはいえとても印象的なものでした。そうした生活の中で得た幾つかの体験 Erfahrung を、ややしばって次に記す事にします。

Martinstor と Kaiser-Joseph-Straße  
(右上) 現在, (右下) 1913年当時



## II 石だたみ

ドイツの街、特に中世以来の歴史をたたえる中小都市の街並みは本当に美しい。石とレンガ造りの色とりどりの堅牢な家、様々な模様の石だたみ、たわわに繁る街路樹と郊外の広々とした森——毎日、何時間歩いても飽きる事はない。日本から訪れる誰もが抱くこうした感想に、私も又胸を躍らせてドイツでの生活を始めました。しかし、ひと月半余り経つと——これも又誰もが経験する事の様ですが、明けても暮れてもドイツ語だけの会話と最初の緊張感が弛みだした事とが相まってか、抗しがたい圧迫感に襲われる様になりました。そうすると、当初はあれ程美しく感じた街並みがいいようもなく重苦しいものを感じられる。なぜ石造りの家と石だたみはこんなに冷たいのだ、取っ付きにくくぶっきらぼうなドイツ人にこそ全く相応しい——。

きっと私の心身が弱くなっていたのでしょう。こうした状態は半月ばかりで脱する事ができましたが、再び元気を取り戻して規則正しく Bibliothekに通いだしたちょうどその頃、石だたみを敷き直している場面に出会ったのです。

フライブルクでは——ドイツのたいていの古い都市と同様に、旧市街の大部分は石だたみ Steinpflaster を敷きつめた「歩行者天国」Fußgängerzone となっており、周辺の新市街でも、住宅街の通りなど所々に石だたみが敷かれています。Bibliothekに通う途中のそうした或通りで、おそらく傷んだ箇所を補修しているのでしょう。二人の石工がおよそ50㎡分位の石だたみを敷き直しているのです。二人の石工はそれぞれ、大きな赤っぽい石と白っぽい石を砕いて、一辺が10cm位の方形と5cm位の台形の石を一つ一つ作っています。手間のかかる作業をしているなあと思って、それから毎日通る度に見ていると、二人の石工はどっしり腰を下ろし、一つ一つの石を作っては、その不揃いの石を一つずつ形を合わせて間に砂を入れつつ埋めていくのです。そして——その時初めて解ったのですが、石だたみの石というのは、表面の一辺の長さと同じか1.5倍位の深さで、つまり板状ではなく角(円)柱形をしているという事です。石工達の単調な作業が終り模様入りの石だたみのその箇所が再現したのが、ちょうど一週間後。たった50㎡を敷き直すのに一週間かかったのです。彼らのあまりの根気よさに感心して尋ねかけてみると、石工の一人は「そうだよ、俺達は昔からいつもこうして石だたみを敷いているさ」と言うではありませんか。私はその時、心底から、ああこれは敵わない、ドイツ人のこの頑固さと執拗さには到底敵わないと感じ、連鎖的にいろいろな事を考えさせられ想起させられました。

日本だったら、それ位の道の傷みを直すには、だあーっとアスファルト舗装をしてしまうに違いありません。あるいは街路の美観を維持するためなら、規格品の石板を嵌め込むでしょう。そうすれば、数時間か最大限でも二日もあれば作業は完了する。その方が経済効率も良いに決まっています。それなのに、何事にも「合理的」なドイツ人が、なぜかとも能率の悪い作業を何百年にも亘って繰り返し続けるのだらう。第一、石だたみの道は見た目程に歩きよいものではなく、靴の裏はゴツゴツしますし、婦人のハイヒールならばしばしば踵を折りそうです。それにドイツの街でも、車両用の道路は完璧なコンクリート舗装がなされています。一体なぜ、彼らは石だたみにこだわり続けるのだらう。もちろん、元来が木と土からなる私達の街並と



Münsterplatz の石だたみ

は事情が違いますし、ドイツには今なお、職業としての石工を成り立たしめる様な Meister 制度が確固として存続しているといった条件もあるでしょう。それにしてもなぜ——。

おそらく彼らは、過去を懐かしむためだけや美しい街並を保存するためだけに、ああして石だたみを敷き直し、伝来と同じ石とレンガの家を再建するのではないでしょう。そうではなくて、彼らドイツ人は、自分達の存在の証し Identität を確認するためには、同じ街並を守り繰り返し再現せざるをえないのではないかと——、私にはそう考えられるのです。教会はもとより古い家や石だたみにはたいてい、最初に建造(舗装)された年と再建(再舗装)された数回の年号が、何百年にも及んで刻まれています。想えば、周知の様に、このドイツの地——中部ヨーロッパでは、古代の民族大移動に始まって、とりわけ中世末以降現代に至るまで、宗教・農民戦争、各領邦・国家間の争いなど度重なる戦乱・騒乱・革命に明け暮れ、幾度も国境線が塗り替えられて来ました。そして二度の世界大戦、特に第二次大戦では全土が戦場と化し、大半の都市が灰燼に帰したのです。フライブルクも又今次大戦によって、市街の七割が破壊されたと聞きます。しかもこの中部ヨーロッパは今も又、様々な人種・民族が入り乱れて住む地です。こうした歴史空間にあって、彼らドイツ人は、自己を identifizieren するために、中世以来築き上げてきた自らの市民 Bürger としての誇りを保持するために——たとえ19世紀的「市民」概念が空語と化しつつある現在にあって、伝来の街並に固執し続けるのではないだらうか。その様に考えると、今次大戦後廃墟となった街のいたる所で先頭に立って石を一つ一つ積み上げた、あの「瓦礫おんな達」Trümmerfrauen の姿が生き生きと目に浮かびますし、ヴァイツゼッカー - R. v. Weizsäcker 大統領が戦後40周年の記念講演で

「過去の出来事を誠実に心に刻む erinnern」様にと強調した言葉が、ずしりと胸に響きます。あのドイツ人の徹底癖・堅実さは、この様にあくまで歴史と対決しようとする持続的な態度のなかから培われたのだと思えるのです。

翻って私達の場合はどうでしょうか。もちろん我国も、戦乱に明け暮れた時代や多くの都市が手ひどい空襲を受けた経験を持っています。しかし、他国・他民族との相剋のなかで絶えず自己を確証する必要は殆んど無かったとあってよいでしょう。なによりも私達日本人どうしは、暗黙のうちにお互いが了解しあえる（と思っている）関係にあります。しかも、自治都市の萌芽は近世初頭には悉く摘み取られ、今もって自立的な市民意識の契機は不十分であると考えられます。そうした私達の歴史的風土にも多くの美点や利点が存在し、かかる与件が逆説的に、現在の経済的繁栄をもたらしたとも考えられます。しかし私達は自分達に固有な街並を、いつになったら自分達の手で再構築できる事でしょうか。事柄は単に街並の問題にとどまりません。ドイツ人——ヨーロッパ人の、あの他者と対峙し歴史と対決して自己を主張し続ける頑強な精神を想うと、優しくはあるが移ろい易く曖昧な、現在の私達の文化の脆さを痛感せずにはおれない次第です。

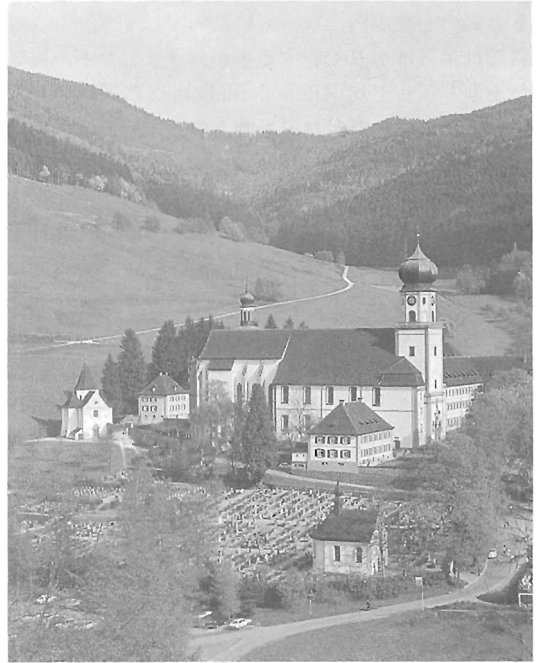
こうして、石だたみを敷き直している場面に出会い様々な事を考えさせられた体験の後には、私のドイツを見る眼も幾分変わった様に思えます。

### Ⅲ 老人の孤独

ドイツでの研究と生活も、半年もすれば軌道に乗り、妻子の来独と多くのドイツ人の知己や友人を得てすっかり楽しいものになりました。定期的な Kolloquium と Hauptseminar への出席、規則正しい Bibliothek 通い、そして週末には、友人に案内されてフライブルク郊外



私の Wohnung から見た風景



シュヴァルツヴァルト山中の St. Trudpert 修道院

やシュヴァルツヴァルトの中に散在する小さな街や教会を訪れたり、又、知己・友人をお茶や食事に招待したり招待されたり——。ドイツ語の方も、Kolloquium などででの討論の聞き取りには最後まで難儀しましたし、文献読みも遅々として進みませんでした。会話で意志の疎通に事欠く事はなくなりました。

そうした秋から冬の間中、私と妻と娘の三人はドイツ人に倣って、しばしば家から近い Lorettoberg の森の中を数時間かけて散策——テクテク早歩き of wandern ではなくブラブラ遅歩き of wandeln をしたものです。聞きしに勝って、ドイツ人はよく歩く。老夫婦も若い恋人達も、そして犬を連れた紳士も、郊外の森の中を wandeln し遠くの山の中を wandern する。セミ Tanne やドイツトウヒ Fichte、ブナ Buche やカシ Eiche の木々がうっそうと繁る森の中は、最初は怖い気もしますが、歩く道はちゃんと付けられていますし、木々の間から差し込む光線が美しく実に清々しいものです。ドイツの森とはこういうものか、森の民は今もやはり森から離れられないのかと考えながら、私達も又歩きました。

しかし、一月の或日曜の午後、異様な光景に出くわしたのです。その日は零下10度位の寒さで、森の中の緩やかな坂道もツルツルに凍りついていました。ちょっと油断すれば転びそうになる、それが面白くて私達は手をつなぎ、きやっきやとはしゃぎながら坂道を登





森の中の wandeln

って行きました。さすがにいつもと比べて行き交う人も殆んどなかったのですが、その時、前方から一人の老婦人がゆっくり近づいて来ます。皮のマントを着、底の分厚い靴をはいて一步一步——そう、歩幅は足の大きさと同じ位だったでしょうか、しかし、しっかりと足取りでよろける事もなく坂道を下って来るのです。私達はあっけにとられて、その場に立ちすくんでしまいました。通り過ぎた時の顔から察して、その婦人の年齢は70歳は超していたでしょうか。振り返ると、彼女は相変わらずゆっくりと、しかし確実な足取りで遠ざかって行きます。私は、背筋を重い物で打たれた様な気がして、その日一日憂うつだったのを今でもはっきりと覚えています。

厳冬の森の中の老人の独り歩き——そうした情景に、



森の中の wandeln

その後も幾度か出会いました。森の民の習性にしては度が過ぎている。ましてや健康のための散歩などと説明できるわけではない。なぜだろう。日本の老人達ならおそらく、炬燵で丸くなっているかテレビでも見ているでしょう。寒い冬の日に年寄りが一人で外をふらつこうものなら、若い者や世間が許しておくはずはありません。ドイツの老人達はなぜかくも強いのだろう。



住宅街の或通り

ひょっとしたら、独りで「神様」と対話しているのではないだろうか——、そうとしか思えないのです。もとより、「神は死んだ」(F. Nietzsche) 現代にあって、非キリスト教化が進行しつつある現在の社会で、あの老人達が敬虔なクリスチャンであるかどうかは知る由もありません。しかし、彼らの姿を想い浮かべると、「何か」と独りで向かい合っている、「或人」に必死で語りかけている——、どうしてもそう思えてくるのです。その様に考えると、ドイツの老人達の孤独な魂とその強さが、Münsterの外界から隔絶された堂内の、あのステンドグラスの美しさとオーバーラップして、重く胸を打ちます。私にはキリスト教に関する素養は全くといってよい程ありませんが、やはり、キリスト教がドイツ人の精神を規定した作用力には圧倒的なものがある——と、自明の事柄を改めて強く感じます。

ドイツでは——特に大都市以外の所では、老人の数が相対的に多く、子供や孫達と一緒に住む事のない彼らは、石の家でひっそり暮らしています。住宅街の通りで、薄い内側のカーテンの奥からじっと外を眺めている老人の姿を見かけると、思わずぞっとする事があります。これから高齢化社会を迎えようとする我国にあって、我々老人達は、果してドイツの老人達のような孤独に堪えうるだろうか——その場合、「何を」抛り所にしうるのだろうか。おそらくドイツの老人達は、死ぬ時も「何か」と向かい合って独りで死んでいくのではないだろうか。それに比して私達の場合は——。問題

は、事の良し悪しではありません。老人の孤独を通じて、独りで立つドイツ人の精神の強靱さとその根の深さを想うばかりです。

#### IV. 娘の通学

さて、ドイツ精神の強靱さと硬質性について考えさせられた二つの体験を記してきましたが、ドイツ人は打ち解けてしまえば実に親切で、又開放的ですからあります。娘の通学問題を通して体験した、そうしたドイツ人の開放性について記す事にしましょう。



娘の誕生日会

私は渡独する前から、娘（当時10歳＝小学4年生）を、インターナショナル・スクールなどではなく現地の小学校 Grundschule に放り込んでやろうと決めていました。たとえ本人がそれでドイツを好きになろうが嫌いになろうが、将来何らかのプラスになるだろうと考えたからです。娘には前以て Alphabet の読み書きと簡単な単語を教えておきましたが、当然の如くドイツ語は全くしゃべれません。しかし結果は大成功——、娘は Grundschule の4年生として七ヵ月余り、日本に居た時よりも生き生きと通学しました。もちろん手続問題や宿題の手伝い等、親として随分心配もし苦労もしましたが、娘の学校と子供達を通して学んだ事柄はとて多かつた様に思います。

何よりも驚きかつ感心したのは、教師及び級友達の娘を受け入れた開放的な態度とその自然な振舞いです。最初の日に先生が「私達はあなたにドイツ語を教えるから、あなたは私達に日本の事を話してね」と娘に言ったそうで——表情と手振りから勘で、確かにそう聞いたと娘は報告しました。級友達も同じ様に誰彼となく、授業中や休み時間の事ある毎に娘をつかまえては、その都度の素材を使い又遊びながら、娘に

ドイツ語を教え日本の事を聞いたそうです。娘はドイツ語を話せない苦痛を、そうした「交流会」を通じて——日本語を教え書きまくる事で中和し、殆んど抵抗もなくクラスに溶け込んだ様です。これは帰宅してからの近所のお友達との遊びの場合も同じで、手真似を交えてすっかり仲良く遊びました。妻が持参した色紙でその子供達に様々な物を折ってやると、彼らは折り方を真似し根掘り葉掘り尋ねるので困り果てたものです。子供達は私と道で会っても、„Herr Kato, Guten Tag!“ と言っては有る事無い事話しかけてきます。そうしたお友達のおかげで、娘は四ヵ月経った頃には、自分から電話をかけてはお友達の家遊びに行く様になりました。日本の私の町内で、ポーランドから来て暫く住んでいた子供がいつも一人で淋しそうにしていたのを記憶していただに、私はドイツの子供達の明るい振舞いに一種の感動すら覚えました。

もとより、娘の場合は好運な例外に属したかも知れませんが、子供達ゆえの無邪気さもあってでしょう。しかし大人達も又、いったん打ち解ければ本当に親切で誠実です。それに日本に対する関心も深く、お茶の席で日本の住宅事情の悪さや労働時間の長さについて尋ねられ、説明に窮したのを覚えています。ドイツ人の子供も大人も、外国人に対しては実に開放的で強い関心を抱いているといえます。思えば彼らは、夏の Urlaub 旅行では毎年ヨーロッパのあちこちの国に出かけるわけですし、子供達は全て、日本に当てはめれば小学5年から第一外国語を、中学1年からは第二外国語を習います。それに何よりもドイツ中には数多くの外国人 Ausländer が住んでいます。そうした環境の中でドイツ人の外国人に対する態度が自然であるのも、当然といえるかも知れません。

ちなみに、フライブルクに於ける Ausländer の数を



福笑いに興じるドイツの子供達



大家さんの Geiger 氏とその家族

傍証してみましょう（精確な統計を調べたわけではありませんが）。総数が住民の約十数%——西ドイツ全国平均とほぼ同じです。イタリア人約3000人、タクシー運転手の三人に一人はトルコ人、東欧系・アラブ系おり、日本人は約200人（殆んどが研究者とその家族、学生に限られています）、韓国人学生はそれより多く、ヴェトナムからの難民 Flüchtlinge もおり——というふうに種々雑多な Ausländer が住み付いており（大学関係者はその内の少数です）、したがって当然の事ながら彼らが社会の一部を構成しています。この点を考えただけでも、やはりここは中部ヨーロッパなのだなあ実感しましたし、ドイツの学校と子供達の外国人に対する開かれた態度も、さもありなんと納得したものです。もちろんそうしたドイツ人の態度の下層には、歴史的な民族的葛藤・差別と憎悪の感情もありましょうし、現在も外人労働者 Gastarbeiter の問題

が、西欧の他の諸国と同様に重要な社会問題となっています。しかし少なくともドイツでは、外国人の存在は「現実に社会の一部を構成」しており、かかるものとして外国人を「受け入れようと努力」しています（Die Zeit）。ここでも又、彼我の社会のあり方の相違を考えると、日本社会の「異様さ」が重くのしかかってこざるをえません。

以上、長々と私のドイツ体験を記してきましたが、書きたい事は他にも尽きません——長い冬の暗さと家々の灯りの美しさ、食べ物と物価と住宅の問題、「緑の党」Die Grünen と若い世代にまつわる問題、とりわけ小学校から大学までの教育のあり方等々。しかし紙数も尽きましたので、そうした事は別の機会にでもお伝えできればと思います。

私にとって、ドイツを肌で知ったこうした体験 Erfahrung は——それまでも知識としては人並み以上に持っていたつもりでしたが、やはり極めて貴重なものでした。ナショナリズムとファシズムという近現代ドイツ史——ヨーロッパ史の深層と絡む問題を研究テーマとし、„Nationalstaat” 概念を批判的に捉える事を志している私にとっては、こうした体験をどの様に問題意識の中に組み込み、どの様に方法的に鍛えていくのか——重い課題です。しかしこうした体験を反芻しながら、こつこつと研究成果に結晶させていかなければと考えております。

最後に、この様な貴重な海外研修の機会を与えていただいた本学学長初め理事会・教授会各位、留守中多くの御迷惑をおかけした教員・職員の皆様に、心から厚く御礼申し上げます。と同時に、この研修の成果を活かして今後の研究・教育上の職務に励む所存です。

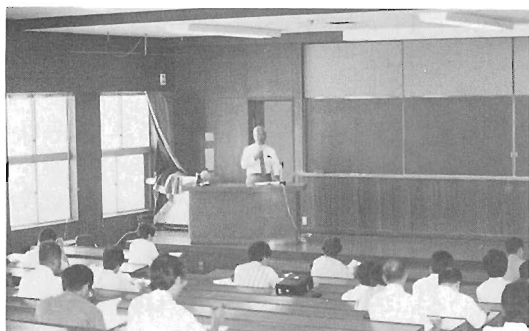


小都市 Furtwangen のカーニバル

## 昭和62年度公開教育講座

薬系大学を卒業した社会人を対象として最新の医学、薬学の知識、情報を与えることを目的として昭和58年度に卒後教育講習会を発足させた本講座も回を重ねて本年度は第5回の公開教育講座が開催された。これまでは開講日を8月から9月にかけての土曜、日曜としていたが、本年度は土曜日ごととし、昨年度と同様に各界の権威をお招きするとともに本学の教授陣も参加して下記のとおり行われた。

受講者の関心は極めて高く、来年度以降についても多大の期待が寄せられている。



8月22日(土)

バイオテクノロジーの進歩と医薬品

武田薬品工業株式会社 顧問 大村栄之助

分子レベルで観る癌

国立がんセンター研究所 室長 口野 嘉幸

8月29日(土)

薬局経営の将来像についての一考察

(ドイツの薬局・日本の薬局)

大阪薬科大学 講師 飯島 幸次

がん温熱療法の展望

京大名誉教授・国立京都病院名誉院長

菅原 努

9月5日(土)

調剤のゼロデフェクトに挑む

神戸大学教授・医学部附属病院薬剤部長

黒田 耕司

放射性医薬品の最近の進歩

大阪薬科大学 教授 田中 千秋

9月12日(土)

有機化学の移り変わり——立体化学を中心として

大阪薬科大学 教授 山口 秀夫

最近の医用・薬用高分子材料

京都大学医用高分子研究センター

教授 篠 義人

昭和62年度

## 各部・委員会・委員

(No. 16 (1987. 5. 14) 掲載以降)

◎は部署の長

(昭和62年6月1日)

学生部

◎望月伸三郎(教授)

稲森 善彦(助教育)

石田 寿昌(助教授)

松村 瑛子(講師)

学生寮

◎森下 利明(教授)

望月伸三郎(教授)

馬場きみ江(助教授)

浜中久美子(講師)

## 学位授与

[博士]

松村 靖夫 医学博士 (62. 6. 29)

腎皮質切片からのレニン遊離におよぼす  
 $\alpha$ -adrenrcetor 作動薬の抑制作用 (大阪  
市立大学より)

竹内 一男 薬学博士 (62. 7. 29)

ジンチョウゲ *Daphne odora* Thunb. から  
得られる Biflavonoids に関する研究  
(本学より)

## 人事異動

学生部長発令 (62. 6. 16)

望月伸三郎(教授)

助手発令 (62. 10. 1)

西嶋三栄子(分析化学)

図書課事務主任 (62. 10. 1)

吉田 弘子

退任 (62. 6. 15)

太田 長世教授・学生部長

(任期満了につき)

兼務解職 (62. 9. 30)

森本 武司(図書課長)

退職 (62. 8. 31)

島 厚志助手(生物化学)

## 法人新理事・評議員決定

昭和62年5月の理事会ならびに評議員会において、法人新理事、評議員が次の通り決定した。任期は3年間。

理事長	森下 泰
評議員	石黒 武雄
理事	大村栄之助
評議員	澤木 茂
理事	曾根 節子
評議員	永田 亘
理事	藤田 栄一
評議員	森坂 勝昭
理事	堀田 輝明
評議員	山口 秀夫
理事	山田 安邦
評議員	朝尾 正
評議員	安部 和寿
評議員	石本 巖
評議員	奥野 喜一
評議員	小澤 貢
評議員	杉本 宗雄
評議員	竹村喜示子
評議員	中世古二三子
評議員	中野 浩
評議員	平岡 栄一
評議員	藤原 富男
評議員	水川 孝
評議員	水谷 泰久
評議員	山中 廸子
評議員	吉矢 佑

## 訃 報

本学前理事、評議員柴田 卓先生は昭和62年7月17日ご病気のためご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 川野名誉教授より御寄附

永年本学に勤務せられ、本年3月御退職になりました川野タツ先生より退職を記念に本学の植樹にと金一封の御寄附がありました。先生の御芳志を生かすと共に先生に厚く御礼申し上げたいと思います。

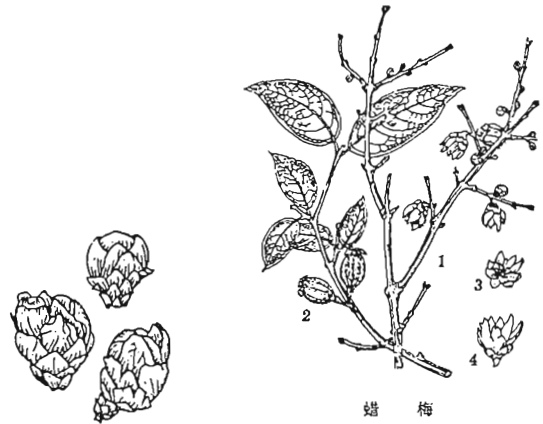
## 後期行事予定表

[62年]	
12月5日(土)	前期再試験(1~4年次生)
12日(土)	
19日(土)	昭和63年度特別実習配属内定(3年次生)
22日(火)	前期再試験(1~4年次生)結果発表
24日(木)	後期授業終了(4年次生)
25日(金)	冬季休業
[63年]	
1月7日(木)	
8日(金)	授業再開(1~3年次生)
8日(金)	後期定期試験(4年次生)
12日(火)	
16日(土)	後期授業終了(1~3年次生)
18日(月)	後期定期試験(1~3年次生)
29日(金)	
25日(月)	再試験(4年次生)
30日(土)	
2月8日(月)	第1次卒業生発表
12日(金)	昭和63年度入学試験
16日(火)	特別再試験(4年次生)
20日(土)	
19日(金)	学部入学試験合格者発表
20日(土)	再試験(1~3年次生)
3月3日(木)	
2月29日(月)	第2次卒業生発表
3月14日(月)	進級者発表、再試験結果発表
19日(土)	第35回学部卒業式並びに第12回大学院修了式

# ロウバイ

古来、ロウバイの花と香は、西施粉黛の風情も及ばないとし、雪中の四花としてウメ、スイセン、ツバキとともに広く愛好され、大阪等、関西各地では庭木とし、あるいは正月用に生花として親しんできた。まもなく本学の中庭にも見られる頃である。

ロウバイ科の *Chimonanthus praecox* (L.) Link. ロウバイは、中国原産の落葉灌木で、陝西、湖北省、江南地区に広く分布し、写真の蘇州虎丘の花ざかりも見事である。生育には、日当たりがよく、根はつねに水で潤おい排水良好の土地が最適である。陽の光に半ばすけて蠟細工のように見える黄花は、臘月、陰曆12月、すなわち初冬から初春の頃、風雅な芳香を漂わせ、葉のいまだでいていない枝々に一杯につける。花被片は多数で、外片は小さく、中片は大きく、ともに黄色であるが、中心は紫褐色の小形内片が見られる。栽培品種が多く、var. *grandiflorus* (Lindler) Makino トウロウバイは、花の径3~4 cmで他のものより僅に大形で、内片には淡い紫褐色の斑点がある。また、var. *concolor* Makino (var. *lutea* Makino) ソシンロウバイ(素心蠟梅)は、全花被片が黄色で美しい。その他、雲南産には眞蠟梅があるという。我国へは、後水尾天皇(1596~1680)の頃、中国から朝鮮を経て渡来したとし、ヨーロッパへは1712年、イギリスには1795年に伝わったとされている。この花木にはカラウメ、Winter sweet、臘木、蠟梅、蜡梅等の異名があり、現在中国で生薬名として、蜡梅をあ



蜡梅药材

蜡梅  
1.花枝 2.果枝 3~4.花



てているものも見られる。

薬用には、花蕾を鎮咳、解熱に、根と葉は打撲傷、腰痛に煎服し、火傷に花をゴマ油で浸出し塗布する。また、花を水で茹でて食用に供すると、明代の救荒本草に記している。花の成分として borneol, cineole, linalool 等の精油が知られているほかは未詳であるが、哺乳動物に強い痙攣を起こすとする calycanthine が含まれているという。尚、他の用途として、葉は葉脈が細かい網目状で強いので、水酸化カリ液で処理して葉肉を除き、染色して書物の葉等の装飾用とすることもある。

(太田長世)